

企業内コミュニケーションの課題と教育環境

■ 企業を取り巻く環境変化

- ICT技術の多様化、細分化、高度化
- より一層の品質向上、低コスト化要求
- ワークパラダイムの変化

■ 進むべき方向性

このような環境変化の中で、業界におけるプレゼンスを高め、企業としての成長を維持、向上させるためには、どのような経営戦略が必要か？

■ 現場の課題や問題点

しかし一方で、社員が働いている現場に目を向けると、経営戦略との間に大きなギャップが見られる

■ 課題解決に向けた人材開発・育成をeラーニング活用の視点で考える

- eラーニングの捉え方も時代とともに進化していることを認識
- Sierを例に教育環境の最適化案を考える

■ 活動の評価と効果の検証

企業としての成長を維持、向上させるための経営戦略

- 事業構造の変革と社員の意識改革による付加価値の高いソリューション提供、
- 新規特化ビジネスの創出
- 見える化と改善による高品質、低コストの実現
- チャレンジングで達成感の持てる自立型の企業風土醸成と社員満足度の向上
- 持続的な競争優位の源泉としての「自立(自律)的人材」育成への取り組み

※某メーカー系Sierの例

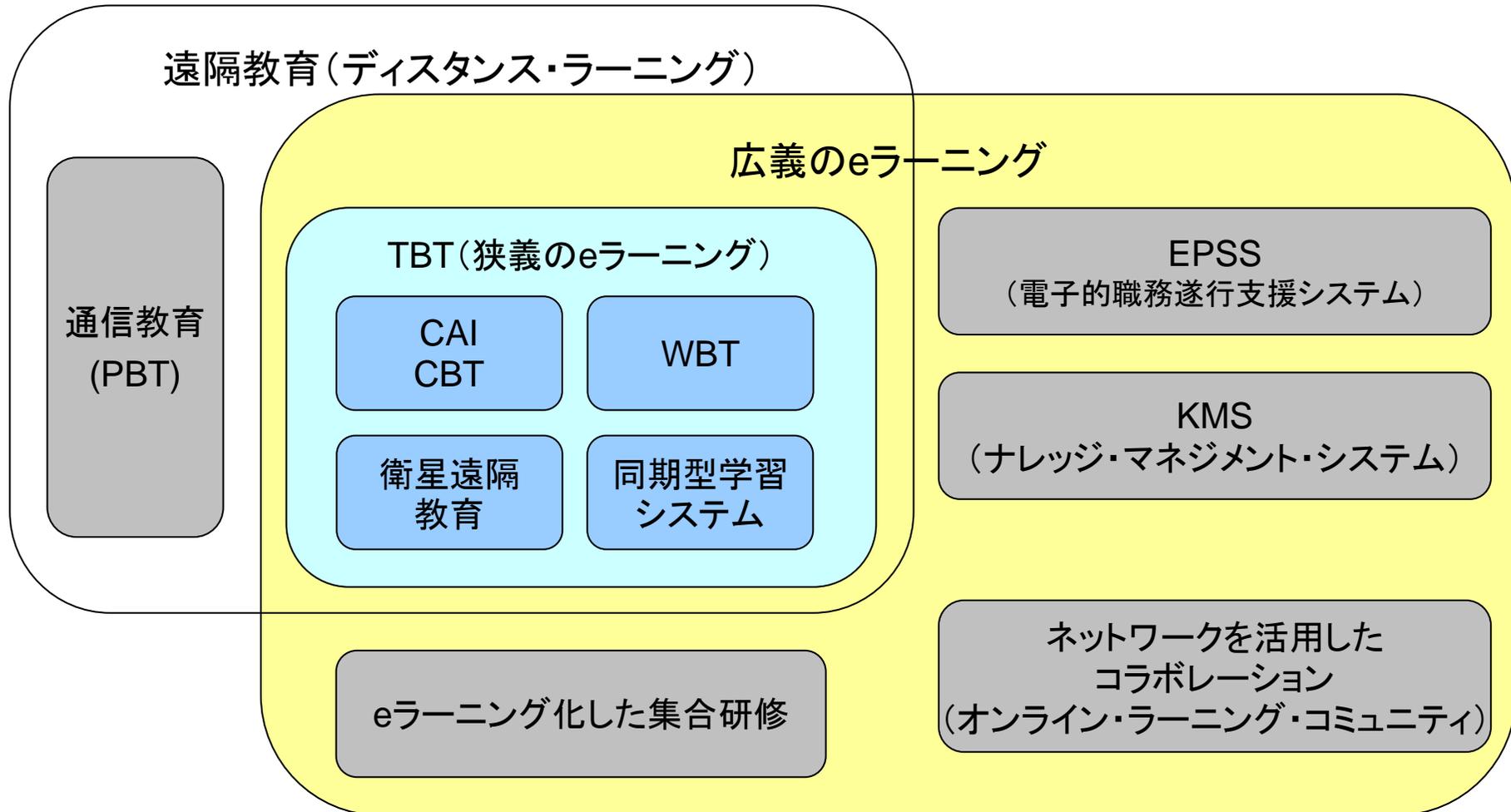


現場の課題や問題点

- 全社のミッションやゴールを共有できていない
- 新技術やトレンドに興味、関心が向かない
- 社員のモチベーションやマインドの低下（自律的な人材が不足）
- 目先の作業に追われ、新しいことにチャレンジする時間や余力がない
- 社員個人のコアコンピテンシーを正しく理解、評価できていない
- コミュニケーションの欠如、ギャップ：インフォーマルなコミュニケーション、組織を超えたコミュニケーションに課題



知識とパフォーマンスを高めるためにインターネット・テクノロジーを利用してさまざまなソリューションを提供すること（鈴木, 2004）



香取(2001)「eラーニング経営:ナレッジ・エコノミー時代の人材戦略」エルコ、P.26

eラーニングの進化

	eラーニング1.0	eラーニング1.5	eラーニング2.0
導入目的	既存コースのe化 (低コスト化・学習 機会の拡大)	+ ブレンディングアプ ローチ	+ 人材マネジメント のIT統合化 学習の個別化
利用対象	IT系企業中心	+ 一般企業(組織) 、高等教育機関	+ 個人(社会人)、 コミュニティ
学習類型	知識提供・伝達	協調学習、グループ 学習	ナレッジ・コンピテン シー共有、集合知の 活用、知恵の創造

CAI WBT

LMS・同期型学習システム

KMS SNS eポートフォリオ
ブログ wiki 検索エンジン



実現に向けた教育環境最適化構想の例

- スキルやノウハウ、ミッションやゴールなどの見える化と共有のためのコミュニケーション基盤づくり
- Know HowからKnow Whoへ～スキルの多様化、高度化、専門化に対応したナレッジマネジメントの進化
- 全社横断的な実践コミュニティ(CoP:Community of Practice)によるコンテキストベースの自律学習・行動支援



活動の評価と効果の検証方法

- 従業員満足度調査の結果比較による定性的評価を実施
- eポートフォリオやブログなどで発信されるナレッジの検索結果(ヒット数など)を従来のナレッジベースでの検索結果と比較
- 戦略的ソリューションの提案件数、新規特化ビジネスの企画件数の推移を評価
- 顧客満足度調査による品質向上の定性的評価を実施
- 個々の業務プロジェクト終了時にボトムアップ型ナレッジシェアによる原価率改善効果についてアンケート調査を実施
などなど・・・

